

「書庫図書」の利用状況について

中川敏子

1 はじめに

前号のこの欄で開架閲覧室の「貸出ベスト100」が紹介されたが、今号では書庫図書の利用についてみてみよう。

関西大学総合図書館は、2階に学習用の図書約18万冊を備える開架式の閲覧室があり、ここでは自由に図書を手にとり、閲覧、コピー、貸出をすることができる。主な利用者は学部学生で年間約101万人の入館者の内、88万人にのぼり、そのほとんどがエントランスから2階に上り、開架図書を利用する。

1階には、メインカウンターとレファレンスカウンターがあり、学術研究用の資料を提供している。

レファレンスカウンターの前には、辞書、事典、統計など各種の研究用参考図書が約52,000冊あり、両カウンター端の書架には約8,300タイトルに及ぶ国内外の新着雑誌が並べられている。その他、新聞、地図などもここで閲覧できる。これらの図書はいずれも貸出はできない。

メインカウンターでは、書庫図書の出納業務を行っている。書庫は地下1階と2階にあり、全蔵書166万冊のほとんどが納められている。

これらの図書は利用者がパソコンを使って検索し、所定の用紙に記入の上メインカウンターで申し込み、入手することができる。カウンターの係員はその用紙をFAXで書庫へ送り、書庫の係員が図書をテリフト（自走式図書搬送装置）にのせてメインカウンターへ送るといった仕組みになっている。

あるいは、直接書庫に入って利用することができる人もいる。原則的には専任、非常勤の教員、大学院学生は入庫することができる。学部の上位年次生も、指導教員が研究指導上必要と認め、入庫ガイダンスを受けることなど所定の手続を完了すれば、入庫可能である。入庫人数は1日平均180人、試験期の多い時には450人になることもある。

この他、書庫図書の利用者には校友（卒業生）や学外者もいる。学外者の場合、直接来館する場合と郵送による相互利用がある。また学内の諸機関や、高槻キャンパスの図書室とも、相互に資料を取り寄

せたり送ったりして、補完しあっている。

2 開架閲覧室と書庫との連動

「開架図書貸出ベスト100」の続編として書庫図書の貸出ベスト100を出してみた。昨年の開架図書の出力条件にできるだけ近いものとして「1998年度書庫内高利用図書リスト」を出力した。これは、対象者が学部学生で、対象期間は1998年4月から1999年3月までの1年間、貸出回数は5回以上という条件により作成したもので全部で385件になった。

その内から主なものを抜粋し、上位100冊をあげると別表のようになった。

まず開架室との違いからみてみよう。利用回数が開架の方がはるかに多く第1、2位は202回、175回と3ケタにおよんでいるのに比べて書庫図書の場合最高で13回、第2位で12回となっている。これは開架本が授業関連図書として学生のニーズにそった複本を数多く揃えていることによると思われる。

開架に何冊も複本があつてなおかつ書庫本が高利用になっているものは、開架の本がすべて使われ、書庫本に利用者が流れてきたということが考えられる。これらの本の中には本学の教員による著書が少ない。教科書として指定されていたり、推薦図書、参考図書として講義要項にあげられているものがみうけられる。

書庫の場合、現在原則として複本は入れないことになっている。書庫の狭隘化も深刻で、日々の小さな移動や、特別にスケジュールを組んで行う移動作業で凌いでいる。少しでもスペースをあけるために、複本抜き取り作業を実施し、抜き出した図書の中には国内外の図書館に寄贈し活用していただいているものもある。

以上のように、開架と書庫では利用のされ方が違い、数字の上では大きなひらきが生じた。

また、手続き上の違いが、数字に反映しているのかもしれない。書庫本入手における手続きが、開架でのそれに比べて、申込票への記入、出てくるまでの待ち時間等、煩雑で手間どる分だけ学生は開架で

済ませようとする傾向が強い。低年次生時代に開架の学習図書に親しみ、手続き方法などに慣れておいてほしい。そして上位年次生になって、書庫の研究用図書も手にし、使いこなして卒論に至るといった段階を踏んで、卒業して行ってほしいものである。

3 書庫図書貸出ベスト100

さて、本題の書庫図書の高利用100冊の図書を考察してみよう。

(1) 学部学生

100冊の内、書庫以外の複本を持っているものと書庫のみのもとの区別を調査してみたところ下記のようになった。

纯粹に書庫にしかなかったもの	49冊
開架にかつてあったが今はなく結果的に書庫のみとなっているもの（例えば、発注中であるが絶版や品切れ、再版未定などになっているもの）	14冊
その他開架や高槻にも書庫にもあるもの	37冊

、を合わせると書庫にしかないものは63冊になる。

これらの図書の出版年をみてみると、書庫にしかなかったものの出版年別冊数は下記の表の通りとなる。

出版年	書庫のみ	開架にあったが今はなく書庫のみ	小計
1930年代	2		2
1940年代	0		0
1950年代	6		6
1960年代	8		8
1970年代	13	6	19
1980年代	14	4	18
1990年代	6	4	10
合計	49	14	63

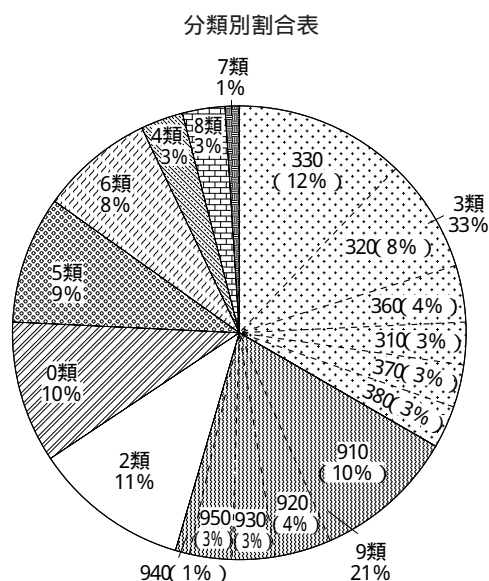
開架にはなく書庫のみにあったものの中では、古い本が活用されており、書庫における保存機能が果たされていることがわかる。古いものを連綿として受け継ぎ、伝え保つことは、図書館の担うべき大きな役割である。

この100冊の中でみると、1930年代の出版物は、ジョルジュ・サンド『笛師のむれ』（9、11位）であった。おそらく卒論で使われたのであろう。1950

年代のものではD・H・ロレンス『戀する女たち』（2位）、ジョージ・ガモフ『不思議の国のトムキンス』（84位）、佐伯梅友ほか『和泉式部集全釈』（86位）など、いずれも今では絶版で手にはいないものばかりである。『戀する女たち』については、関西大学の「講義要項」を調べてみると、英文学科の演習の参考図書としてあげられている。

開架室にかつてあったが今はなく、書庫のみとなっている本の出版年は、1970～1990年代と新しい。開架室にあるものは、本来たえずリフレッシュされており、新しいものでなければならないことから、こういった結果が出たものと思われるが、それだけに、必要とされるものは逸早く発注し、絶版や品切れになる前に買い揃えなくてはならないという教訓にもなるのではないだろうか。

書庫の本といえども、やはり新しく出版された本が使われていることを示すもので、請求記号にN8が付いているものがある。100冊の内35冊あり、1995年から1998年の出版物であった。N8とは、関西大学図書館の分類付与上の独自の別置記号で、1995年から付与されている。それまでの分類体系は関西大学独自のものであったが、日本十進分類法第8版を使い、外注による自動付与に切りかえた時からのものである。これらの本は、大抵開架にあったり、高槻図書室にあるものが多く、書庫だけにあるものは、今村都南雄ほか『行政学』（30位）、張育茂『蕭軍伝』（43位）、信立祥『中国漢代画像石の研究』（45位）の3冊であった。よく使われる新しい本は、開架にも書庫にも準備されているということであろうか。



100冊の本を分類別に円グラフで表わしてみると前頁の「分類別割合表」のようになる。3類(社会科学)が33%で最も多く、その内訳は、経済が12%、次いで法律が8%となった。2番目に多いのは9類(文学)の21%で、日本文学10%、中国文学4%となった。5位と8位に瀬戸内寂聴訳『源氏物語』が入っている。平安中期に書かれたこの大長編小説が、現在に至るまで読み継がれ、瀬戸内寂聴訳であるという話題性もあり、読みやすい教養の源氏として、大学図書館でも人気があるのであろうか。ちなみに、これは開架にも1セットある。

その年の社会情勢を反映するものとして、『公的介護保険』(20位)や、『メス化する自然』(79位)、『少年法改正はいかにあるべきか』(80位)などがある。100冊のリストには出てこなかったが、同じく最近の傾向や時代を反映するものに『環境ホルモンとは何か』、『猛毒ダイオキシンと廃棄物処理』、『ポケベル・ケータイ主義』などがあり、映画「タイタニック」関連であろうか『タイタニック号の最期』や『タイタニック沈没』などが、高利用リストに上がってきている。

97位の『都風俗化粧伝』は、博物館実習の展示出品の参考資料として、頻りに利用されていたものの一部と思われる。例年この展示演習が充実してきて、学生たちの手による立派な目録が完成する。展示の片づけを終え、この目録を携えて出品した資料を返却にくる。一つのことをやりとげた後の輝いた顔を見ることができるのは、図書館職員として嬉しい一瞬である。

(2) 専任教員

期間1年、5回以上で、専任教員という条件では高利用リストは0件になった。開架図書は全利用者に対して一律2週間であるのとは異なり、書庫図書の貸出期間は、資格によって6か月、3か月と長くなる。出力対象の期間が短かく、貸出期間が長いと、貸出の回転率が低いので、高利用のデータが表示されにくい。そこで、専任教員、非常勤講師、大学院学生については、1994年4月から1999年3月までの5年間を期間として5回以上のものを出力することとした。

専任教員については10件出ただけで1位から10位までいずれも5回貸出というものであった。10冊中8冊まで書庫にのみある本で、やはり研究用の図書が使われていることがわかった。分類は2類(歴

史・地理)が2冊と3類が8冊であった。これだけのデータでは、たまたま回転率の高いものが出たのにすぎないかもしれない。研究者の場合、それぞれの研究分野が独自のものであり、一定の資料に集中することも少ないことから、高利用のデータは出にくい。

(3) 非常勤講師

5年間5回以上で出力すると、86件出力された。書庫のみの本は59%であり、100冊の内3類が26%、9類が16%、7類(芸術)が12%、その他の利用率であった。1位は高田敏雄『行政法 改訂版』17回、2位は大越孝敬『ホログラフィ』16回、3位は松平維石ほか『レーザーの基礎と実験』16回であった。他には、波多野里望ほか『滑稽浪花名所』、『国際法講義』、小尾郊一『中国文学に現われた自然と自然観』などがある。

(4) 大学院学生

5年間5回以上で出力すると702件で、上位100冊中73冊が書庫のみの本で、分類では5類(工学・工業)が26%、9類が21%、3類、1類(哲学・宗教)が各々15%であった。

1位は筒井康隆『文学部唯野教授』21回、2位は表面技術協会『PVC・CVD皮膜の基礎と応用』15回、3位は片桐洋一『中世古今集注釈書解題5』14回であり、他には、大橋昭一『ドイツ経営共同体論史』、片口安史『新・心理診断法ロールシャッハ・テストの解説と研究改訂』などがある。

1位の『文学部唯野教授』は1990年に出版されて以来、現在もなお安定した売れ行きで、1992年には『岩波同時代ライブラリー』としても出版されている。当時話題になった大学内部の事件を、いくつもパロディ化したものと、文芸評論との二面構成で作られた小説で、根強い人気を保っている。この本は開架に4冊、書庫に1冊、高槻図書室に1冊、合計6冊所蔵している。ただし、開架の4冊の内1冊は、破損・汚損が甚しく除籍済。もう1冊は発注中であるが再版未定となっている。書庫本は貸出中であったため、開架の1冊の帯出スリップをみると、貸出の記録の日付印が'92年に7回、'93年4回、'94年9回、'95年5回、'96年7回、'97年2回、'98年5回、'99年7回、'00年2回とコンスタントに利用されていることがわかった。1位の座にあるのは、やはり大学が舞台となっているからであろうか。

4 まとめ

書庫本の利用には、この他に、地下2階にある31万冊の製本雑誌や様々な分野の研究者の旧蔵書を集めた個人文庫などがある。製本雑誌は数冊を合本しているため持ち帰るには重く、貸出の期間も3日間と短いため、そのほとんどが館内閲覧にしてコピーで終わる。一般書の場合も、一旦、館内閲覧にしてから館外に替えるケースや、館内閲覧のままコピーで終わることも多い。このように、本自体は動いていても「館外貸出」のリストには上がってこないものがあり、今回のデータではみえていない部分も多くある。「館内閲覧」のリストを出して考えてみる

ことも必要であろう。

利用者ニーズを十分に把握して様々な角度から蔵書を見つめなおし、収書業務に反映させていくことが肝要であろう。

収集から提供まで、図書館内での業務の連携をとることが大切である。図書館職員一人一人が広い視野をもって、常に、よりよい蔵書構成を作り上げていくことを意識し、仕事に取り組んでいかなければならないことを今回の調査をとおして、再認識することができた。

(なかがわ としこ 前閲覧サービス課 高中幼事務室)

書庫図書ベスト100

(98年度書庫図書高利用リストより抜粋)

順位	書名	著者編者訳者など	出版社	出版年	貸出回数
1	機械運動学(精密工学講座6)	牧野洋ほか著	コロナ社	1978	13
2	戀する女たち 上巻(ロレンス選集 第9巻)	D. H. ロレンス著	小山書店	1950	12
3	清朝新疆統治研究	片岡一忠著	雄山閣出版	1991	11
4	資料織田作之助	関根和行著	オリジン出版センター	1979	11
5	源氏物語 巻1	紫式部著	講談社	1996	11
6	四本対照和泉式部日記 校異と語彙索引(古代中世文学資料研究叢書 3)	伊藤鉄也編	和泉書院	1991	11
7	古典文学に見る吉野	片桐洋一ほか著	和泉書院	1996	10
8	源氏物語 巻4	紫式部著	講談社	1997	10
9	笛師のむれ 下巻(岩波文庫 赤-313)	ジョルジュ・サンド作	岩波書店	1937	10
10	刑事政策論	前野野三著	法律文化社	1988	10
11	笛師のむれ 上巻(岩波文庫 赤-312)	ジョルジュ・サンド作	岩波書店	1937	10
12	封建社会	マルク・ブロック著	岩波書店	1995	10
13	魔の沼(岩波文庫)	ジョルジュ・サンド作	岩波書店	1990	10
14	媽祖信仰の研究	李献璋著	泰山文物社	1979	10
15	八月的鄉村	蕭軍著	文教出版社	1978	9
16	アメリカ航空機産業発展史	G. R. シモンソン編	盛書房	1978	9
17	ユーロで変革進むEU経済と市場	星野郁著	東洋経済新報社	1998	9
18	75年のあゆみ 記述編	阪急電鉄株式会社編	阪急電鉄	1982	9
19	空を耕すひと 上巻	カーティス・ケイト著	番町書房	1974	9
20	公的介護保険	本沢巳代子著	日本評論社	1996	9
21	漢代の神神	林巳奈夫著	臨川書店	1989	9
22	Commercial facilities	メイセイ出版編集	メイセイ出版	1996	9
23	こうなる新福祉政策	福祉政策研究会編著	大成出版社	1996	9
24	艾青(アイチン)訳詩集 現代中国の詩星 芦の笛	艾青原作	勁草出版サービスセンター	1987	9
25	空を耕すひと 下巻	カーティス・ケイト著	番町書房	1974	9
26	電子情報ネットワークと産業社会	野口宏ほか編著	中央経済社	1998	8
27	中国伝統農村の変革と工業化	石田浩編著	晃洋書房	1996	8
28	隊商都市バルミラの研究(東洋史研究叢刊 48)	小玉新次郎著	同朋舎出版	1994	8
29	株主代表訴訟大系	小林秀之ほか編	弘文堂	1996	8
30	行政学(ホーンブック)	今村都南雄ほか著	北樹出版	1996	8
31	サンゴ礁	高橋達郎著	古今書院	1988	8
32	百物語怪談集成 続(叢書江戸文庫 27)	太刀川清校訂	国書刊行会	1993	8
33	古辞書概説	川瀬一馬著	雄松堂書店	1977	8
34	国語待遇表現体系の研究〔正〕	山崎久之著	武蔵野書院	1963	8
35	時計工業の発達	内田星美著	服部セイコー	1985	8
36	日本書誌学大系 53 1 絵入本源氏物語考 上	吉田幸一著	青裳堂書店	1987	8
37	圧力団体論 増訂版(有斐閣ブックス)	上林良一著	有斐閣	1976	8
38	内なる治癒力 ころと免疫をめぐる新しい医学	スティーヴン・ロックほか	創元社	1992	8
39	讃岐典侍日記全評釈	小谷野純一著	風間書房	1988	8
40	説きふせられて(岩波文庫 32-222-3)	チェイン・オースティン作	岩波書店	1989	8
41	債務危機の事実 なぜ第三世界は貧しいのか	スーザン・ジョージ著	朝日新聞社	1989	8
42	3Mの挑戦 創造性を経営する	野中郁次郎ほか著	日本経済新聞社	1989	7
43	蕭軍伝	張育茂著	重慶出版社	1992	7
44	犯罪被害者の研究	宮沢浩一ほか編	成文堂	1996	7
45	中国漢代画像石の研究	信立祥著		1996	7
46	潜在記憶研究:意味記憶の枠組みから見た直接プライミング効果	原田悦子著	風間書房	1996	7
47	憲法と政教分離(愛媛大学法学会叢書 4)	百地章著	成文堂	1991	7
48	検証 大阪のプロジェクト	中山徹著	東方出版	1995	7
49	環境(グリーン)マーケティング戦略	大橋照枝著	東洋経済新報社	1994	7
50	民営化の効果と現実	今村都南雄編著	中央法規出版	1997	7
51	郵便貯金の100年	山口修著	郵便貯金振興会	1977	7
52	スパルタクス反乱論序説 改訂増補版(叢書・歴史学研究)	土井正興著	法政大学出版局	1977	7
53	封神演義	木嶋清道訳	謙光社	1977	7
54	現代文章宝鑑	小田切秀雄ほか共編	柏書房	1979	7

図書館フォーラム第5号(2000)

順位	書名	著者編者訳者など	出版社	出版年	貸出回数
55	エバ・ペロン美しき野心	ジョン・バーンズ著	新潮社	1982	7
56	モーパッサンの生涯	アルマン・ラター〔著〕	新潮社	1973	7
57	日本交通公社七十年史	日本交通公社編	日本交通公社	1982	7
58	財産犯の保護法益	林幹人著	東京大学出版会	1984	7
59	日本のニュータウン開発 千里ニュータウンの地域計画学的研究	住田昌二編著	都市文化社	1984	7
60	近代スコットランド社会経済史研究	北政巳著	同文館出版	1985	7
61	地域航空システム 21世紀の空を駆けるコンピュータ	吉村真事著	酣灯社	1986	7
62	片意地娘(ララビアータ) 他3篇 改訳(岩波文庫 32-426-1)	パウル・ハイゼ作	岩波書店	1988	7
63	大図解九竜城	九竜城探検隊 写真・文	岩波書店	1997	7
64	イマージュの解剖学	ハンス・ベルメール著	河出書房新社	1975	7
65	Transportation facilities	メイセイ出版編集	メイセイ出版	1997	7
66	コンピュータがひらく豊かな教育	田中俊也編著	北大路書房	1996	7
67	弓矢と刀剣(歴史文化ライブラリー 20)	近藤好和著	吉川弘文館	1997	7
68	日本企業の戦略管理システム	伏見多美雄編著	白桃書房	1997	7
69	日本の産業構造と地域経済	小杉毅ほか編	大明堂	1997	7
70	障害児教育とノーマライゼーション	堀正嗣著	明石書店	1998	7
71	転換期の金融システム	細田隆著	金融財政事情研究会	1998	7
72	被服と化粧の社会心理学	大坊郁夫ほか編集	北大路書房	1996	7
73	ソニー自叙伝	ソニー広報センター著	ワック	1998	7
74	詳録・会社はこうして潰れていく	帝国データバンク情報部著	中経出版	1997	7
75	年金白書 平成9年度版		社会保険研究所	1998	7
76	マルチ・リーガル・カルチャー	竹下賢ほか編著	晃洋書房	1998	7
77	鐘(現代の世界文学)	アイリス・マードック著	集英社	1969	7
78	中国朝鮮族の研究	鶴嶋雪嶺著	関西大学出版部	1997	7
79	メス化する自然	デボラ・キャドバリー著	集英社	1998	7
80	少年法改正はいかにあるべきか	法務省編	法務省	1966	7
81	戀する女たち 中巻(ロレンス選集 第10巻)	D. H. ロレンス著	小山書店	1950	7
82	三國志 第1冊	晋陳壽撰	中華書局	1959	7
83	性表現の自由(人権ライブラリー)	奥平康弘ほか著	有斐閣	1986	7
84	不思議の国のトムキンス(ガモフ全集 1)	ジョージ・ガモフ著	白揚社	1959	7
85	ラッフルズ伝(東洋文庫 123)	信夫清三郎著	平凡社	1968	7
86	和泉式部集全釈	佐伯梅友ほか著	東宝書房	1959	7
87	古今和歌六帖 上巻 本文編(図書寮叢刊)		養徳社	1967	7
88	人間育成の基礎	A. S. ニール著	誠信書房	1962	7
89	近世灘酒経済史(関西学院大学研究叢書 第22篇)	柚木學著	ミネルヴァ書房	1965	7
90	小売商業政策の展開	加藤義忠ほか著	同文館出版	1996	6
91	コーポレートガバナンス	奥島孝康編	金融財政事情研究会	1996	6
92	三國志 第5冊	晋陳壽撰	中華書局	1959	6
93	徳川時代言語の研究 上方篇	湯沢幸吉郎著	風間書房	1955	6
94	初期俳諧の展開 第2版	乾裕幸著	桜楓社	1982	6
95	支えあう人と人(セレクション社会心理学 8)	浦光博著	サイエンス社	1992	6
96	ドイツのフォークロア	D. シュトゥッケンシュミット	南江堂	1975	6
97	都風俗化粧伝(東洋文庫 414)	佐山半七丸著	平凡社	1982	6
98	沖繩の習俗と信仰 増訂	窪徳忠著	東京大学出版会	1974	6
99	秋山記行;夜職草(東洋文庫 186)	鈴木牧之著	平凡社	1971	6
100	協同組合運動の一世紀	G. D. H. コール著	家の光協会	1975	6